



# 古代アンデスの染織文化

— ナスカ・チャンカイ文化期の織りと染め —



ルーピング（ナスカ文化期）

平成24年3月14日（水）～平成24年4月28日（土）

休館日：日曜日・祝祭日 ※入場無料

共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室

ギャラリートーク：齊藤昌子（家政学部 被服学科 教授）

日時：平成24年4月14日（土）13：30～14：30

場所：本館1階 ロビー（事前予約不要）

（共催：東京大学総合研究博物館 マクロ先端研究発信グループ）

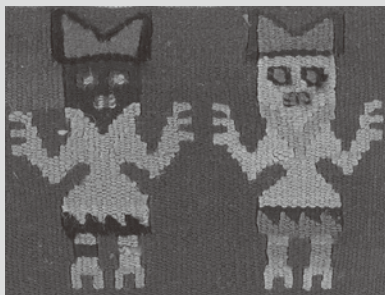


# 古代アンデスの染織文化

## — ナスカ・チャンカイ文化期の織りと染め —

アンデス文明は、現在のペルー共和国の太平洋沿岸に紀元前 3000 年頃に発祥し、他の文明との交流がないまま独自に発展しました。ここには、リヤマ、アルパカなどの獣毛と、現在最も高価な木綿として知られる海島綿の原種である毛足の長いワタの2つがあり、古代アンデスの女性たちは、これらを使って細くしなやかな糸を巧みに紡ぎ、手の込んだ素晴らしい織物に作り上げました。アンデス文明は文字を持たず、紙も発明されませんでした。イメージを表現・伝達するメディアとして織物が重要な役割を果たしました。織物こそがアンデス美術の原点であったと言っても過言ではありません。

本学家政学部 被服管理研究室では、東京大学総合研究博物館所蔵の古代アンデス染織品について、織りの技法と素材（繊維、染料）の分析を行ってきました。この展示では、アンデスにしか見られないナスカ文化期のルーピング、チャンカイ文化期の経浮紋組織などを含む、古代アンデスの織りと染めを紹介します。本展では研究のために作成した織物再現品も展示します。



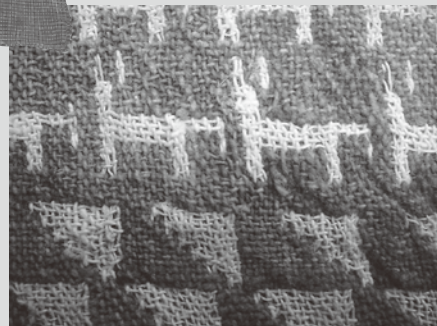
綴織



二重風通



縫取



経浮文組織



経浮文組織

共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス  
東京都千代田区一ツ橋 2-2-1  
TEL 03-3237-2425

アクセス

- ・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線「神保町」駅下車 A8 出口から徒歩 1 分
- ・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車 1b 出口から徒歩 3 分